

単元2 自然界のつながり

1

章のねらい	観点別評価		
	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
・生命の連続性に関する事象・現象の特徴に着目しながら、生物の成長と殖え方、遺伝の規則性と遺伝子、生物の種類の多様性と進化を理解するとともに、それらの観察、実験などに関する技能を身に付けている。	生命の連続性に関する事象・現象の特徴に着目しながら、生物の成長と殖え方、遺伝の規則性と遺伝子、生物の種類の多様性と進化を理解しているとともに、それらの観察、実験などに関する技能を身に付けている。	生命の連続性について、観察、実験などを行い、その結果や資料を分析して解釈し、生物の成長と殖え方、遺伝現象、生物の種類の多様性と進化についての特徴や規則性を見いだして表現している。また、探究の過程を振り返っている。	生命の連続性に関する事象・現象に進んで関わり、見通しをもったり振り返ったりするなど、科学的に探究しようとしている。

1章 生物の成長と殖え方（10時間）

2

章のねらい	観点別評価		
	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
・体細胞分裂の観察を行い、その順序性を見いだして理解するとともに、細胞の分裂と生物の成長と関連づけて理解する。 ・生物の殖え方を観察し、有性生殖と無性生殖の特徴を見いだして理解するとともに、生物がふえていくときに種の観察ができる。	生物の成長と殖え方に関する事象・現象の特徴に着目しながら、細胞分裂と生物の成長、生物の殖え方についての基本的な概念や原理・法則などを理解しているとともに、科学的に探究するために必要な観察、実験などに関する基本操作や記録などの基本的な技能を身に付けている。	生物の成長と殖え方について、観察、実験などを行い、その結果や資料を分析して解釈し、生物の成長と殖え方についての特徴や規則性を見いだして表現しているとともに、探究の過程を振り返るなど、科学的に探究している。	生物の成長と殖え方に関する事象・現象に進んで関わり、見通しをもったり振り返ったりするなど、科学的に探究しようとしている。

時 数	項目 ＜項の目標＞	観点別評価		
		知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
1 生物の成長と細胞 ◆2分野（5）ア（ア）㉔、イ ＜体細胞分裂の観察を行い、体細胞分裂の過程には順序性があることを見いだして理解する＞	規 準 方 法 A 基 準 B 基 準	★細胞の染色など目的に合わせたプレパラートを作製し、顕微鏡を使って観察して記録する方法を身に付けている。 ★生物の成長は、細胞分裂と分裂した細胞が大きくなることによることを理解し、体細胞分裂についての知識を身に付けている。	★体細胞分裂の観察を通して、生物の成長は細胞の分裂・成長によって起こることを見だし、表現している。 ★観察した染色体などのようすに基づいて、細胞分裂の過程を筋道を立てて考えている。	・植物の根の成長に興味をもち、そのしくみを科学的に探究しようとしている。
		行動観察、ペーパーテスト	レポート、ペーパーテスト	行動観察、レポート
		・観察しやすいよう、根を注意深くつぶしたり、適量の染色液で染色したりしたプレパラートを作製でき、スケッチなどの記録を正しくとることができる。 ・分裂過程の知識や細胞の大きさの変化に関する知識を身に付け、順を追って説明している。	・細胞分裂と根の成長の仕組みを観察の結果から見だし、関連付けて考察している。	・植物の根の細胞を観察し、分裂のようすと根の成長を関連付けて、主体的に探究しようとしている。
		・手順にしたがってプレパラートを作製し、観察してまとめている。 ・分裂の過程を順に示し、成長の過程と成長の仕組みを理解している。	・細胞分裂と根の成長を関連付けて考察している。	・植物の根の細胞を観察し、細胞分裂のようすを科学的に探究しようとしている。
2 生物の子孫の殖し方 A 無性生殖 B 有性生殖 C 染色体の受け継がれ方 ◆2分野（5）ア（ア）㉕、イ ＜生物の殖え方を観察し、有性生殖と無性生殖の特徴を見いだして理解する＞	規 準 方 法 A 基 準 B 基 準	・有性生殖と無性生殖のそれぞれの特徴について理解し、知識を身に付けている。 ・有性生殖では減数分裂によって染色体の数が保たれることを理解し、知識を身に付けている。 ・花粉管が伸長していく経時的な変化のようすを、顕微鏡で観察し、スケッチなどで記録している。	・花粉管が伸長する現象を、精細胞が卵細胞と合体する受精のしくみと関連付けてとらえ、自らの考えを導いたりまとめたりして、表現している。 ・有性生殖における染色体の数を、減数分裂と関連付けてとらえ、自らの考えを導いたりまとめたりして、表現している。	★生物の殖え方に興味をもち、いろいろな生物の殖えるようすを意欲的に探究しようとしている。
		行動観察、レポート、ペーパーテスト	レポート、ペーパーテスト	行動観察、レポート
		・無性生殖と有性生殖のちがいについて説明し、それぞれの特徴を正しくとらえている。 ・花粉管の伸長のようすを一定時間ごとに正しく観察し、スケッチなどの記録をとっている。	・有性生殖において染色体の数が保たれることを、減数分裂・受精などと関連付けて見だし、適切に表現している。	・生殖のさまざまな方法に興味をもち、さらに多くの事例を主体的に調べ、まとめようとしている。
		・無性生殖と有性生殖のちがいを理解している。 ・花粉管の経時的な伸長のようすを観察し記録している。	・染色体の数が保たれることを含む有性生殖のしくみを見いだして、表現している。	・さまざまな生物の生殖の方法を調べ、それぞれまとめようとしている。
		方法…評価方法 A基準（十分満足できる。） B基準（おおむね満足できる。） ★…重点評価項目		

2章 遺伝の規則性と遺伝子（5時間）

3

章のねらい	観点別評価		
	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
・交配実験の結果などに基づいて、親の形質が子に伝わるときの規則性を見いだして理解する。	遺伝の規則性と遺伝子に関する事物・現象の特徴に着目しながら、遺伝の規則性と遺伝子についての基本的な概念や原理・法則などを理解しているとともに、科学的に探究するために必要な観察、実験などに関する基本操作や記録などの基本的な技能を身に付けている。	遺伝の規則性を遺伝子について、観察、実験などを行い、その結果や資料を分析して解釈し、遺伝現象についての特徴や規則性を見いだして表現しているとともに、探究の過程を振り返るなど、科学的に探究している。	遺伝の規則性と遺伝子に関する事物・現象に進んで関わり、見通しをもったり振り返ったりするなど、科学的に探究しようとしている。

時数	項目 ＜項の目標＞	観点別評価		
		知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
1 遺伝の規則性 A 遺伝 B メンデルが行った実験 ◆2分野（5）ア（イ）㊦、イ 〈形質の伝わり方の実験を行い、結果に基づいて、親の形質が子や孫に伝わるときの規則性を見いだして理解する〉	規準	★遺伝子によって親の形質が子に伝えられるしくみを理解し、その知識を身に付けている。 ★実験の結果を整理して、子の代の遺伝子、孫の代の遺伝子の組み合わせや比を表現できる。	★生殖細胞の染色体を通して親から子に形質が伝えられることを、受精や減数分裂と関連づけて見いだして表現している。	遺伝の規則性に関して進んで関わり、見通しをもって実習を行い、数多くのデータを得ようとするなど科学的に探究しようとしている。
	方法	ワークシート、ペーパーテスト	発表、ペーパーテスト	行動観察、ワークシート
	A基準	・顕性・潜性の性質や分離の法則を理解し、親の形質が子や孫に伝わるときの規則性を正しく図表に示し、説明している。 ・モデル実験の操作を遺伝の仕組みと照らして説明し、結果を適切に表にまとめている。	・実習のデータの根拠を示しながら親から子、子から孫それぞれの規則性を見いだし、適切に表現している。	・形質の伝わり方について、自ら課題を設定し、モデルを用いた実習を行い、科学的な探究を主体的にしようとしている。
	B基準	・親の形質が子や孫に伝わるときの規則性を説明している。 ・モデル実験の意義をとらえ、まとめることができる。	・実習のデータから規則性を見いだして表現している。	・形質の伝わり方について、課題を設定し、モデルを用いた実習を行い、科学的に探究しようとしている。
	支援	・メンデルの実験について復習し、規則性を確認する。 それぞれの割りばしモデルが示すものを確認させ、子の代と孫の代での結果の違いを確認させる。	・各班の親から子、子から孫それぞれのデータを比較させ、違いに気づかせる。	・モデルを用いた実習を数回行わせ、データを複数取る意味を考えさせる。
2 遺伝子 ◆2分野（5）ア（イ）㊦、イ 〈遺伝子やDNAに関する研究成果と日常生活での利用について、文献や情報通信ネットワークなどを活用して、理解を深める〉	規準	・遺伝子の本体がDNAであること理解している。 ・遺伝子やDNAに関する研究成果と日常生活での利用について理解し、その知識を身に付けている。	・遺伝子やDNAに関する研究について調べ、日常生活との関係をまとめて表現している。	★遺伝子やDNAに関する研究の歴史や現状、成果など日常生活との関係について調べようとしている。
	方法	レポート、ペーパーテスト	発表、ペーパーテスト	行動観察、レポート
	A基準	・核、染色体、DNA、遺伝子の関係性を図示したり正しく説明したりしている。	・多くの文献や情報通信ネットワークを適切に活用して、遺伝子やDNAに関する研究について調べ、日常生活との関係をまとめ、適切に表現している。	・遺伝子やDNAを扱う技術がさまざまな分野で応用されていることをあげ、さらに多くの研究について調べようとしている。
	B基準	・核、染色体、DNA、遺伝子の関係性を説明している。	・遺伝子やDNAに関する研究について文献や情報通信ネットワーク活用して調べ、日常生活との関係をまとめている。	・遺伝子を扱う技術について調べ、具体例を示している。
	基	・DNAと遺伝子の関係について説明し、正しく把握させる。	・調べた資料を精選させ、日常生活との関わりについてまとめさせる。	・遺伝子を扱う技術の具体例をいくつか示し、知っているか、またどの技術について調べようと思うか考えさせる。

方法…評価方法 A基準（十分満足できる。） B基準（おおむね満足できる。） ★…重点評価項目

3章 生物の種類の多様性と進化（4時間）

章のねらい	観点別評価		
	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
・生物の種類の多様性と進化に関する事物・現象に進んで関わり、見通しをもったり振り返ったりするなど、科学的に探究しようとしている。	生物の種類の多様性と進化に関する事物・現象の特徴に着目しながら、生物の種類の多様性と進化についての基本的な概念や原理・法則などを理解しているとともに、科学的に探究するために必要な観察、実験などに関する基本操作や記録などの基本的な技能を身に付けている。	生物の種類の多様性と進化について、観察、実験などを行い、その結果や資料を分析して解釈し、生物の種類の多様性と進化についての特徴や規則性を見いだして表現しているとともに、探究の過程を振り返るなど、科学的に探究している。	生物の種類の多様性と進化に関する事物・現象に進んで関わり、見通しをもったり振り返ったりするなど、科学的に探究しようとしている。

時数	項目 ＜項の目標＞	観点別評価		
		知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
1 生命の連続性 2 進化の証拠 ◆2分野（5）ア（ウ）㊦、イ 〈現存の生物や化石の比較などから、多様な生物は進化によって生じたものであることを体のつくりと関連付けて理解させる〉	規準	★生物には相同器官があることを理解し、進化の概念を身に付けている。	・脊椎動物の前あしなどの器官の比較から、それらが同一のものから変化して生じたものであること見いだして表現している。	・進化に関することさらに興味をもち、相同器官や化石から生物間のつながりを見いだそうとしている。
	方法	ペーパーテスト	ワークシート	行動観察、ワークシート
	A基準	・ある動物のどの部分のほかの動物のどの部分と相同器官であるかを把握し、痕跡器官についても例示している。	・脊椎動物のひれや前あしの対応関係と進化を関連づけて考え、適切に表現している。	・シソチョウとハチウチョウ類・鳥類との共通する特徴について話し合い、想像できる運動や捕食などについて、主体的にまとめようとしている。
	B基準	・相同器官の図において、対応する部分を把握している。	・脊椎動物のひれや前あしの対応関係をまとめている。	・シソチョウとハチウチョウ類・鳥類との特徴の相違点について話し合い、まとめようとしている。
	基			
3 生物の進化と環境 ◆2分野（5）ア（ウ）㊦、イ 〈生息環境に都合のよい特徴が見られることに触れるとともに、陸上生活をする生物は水中生活をするものから進化してきたことを理解する〉	規準	・生物が陸上生活に適するように体を変化させてきたことを理解し、知識を身に付けている。	★これまで学習した動物の特徴をグループごとに関連づけて整理し、進化の方向性について、考えをまとめて、表現している。	★脊椎動物の5つのグループや植物の各グループの特徴から、それぞれのグループの関係を見いだそうとしている。
	方法	ワークシート、ペーパーテスト	ワークシート	行動観察、ワークシート
	A基準	・脊椎動物のグループ間の関係、植物のグループ間の関係について正しく理解し、近いグループを把握し知識を身に付けている。	・体温・呼吸のしかた・生まれ方や維管束・殖え方について書き出し、特徴が近いものを順にまとめ、図表に表している。	・それぞれのグループ間の関係について表にまとめ、水中から陸上への生活場所の変化と生物の進化の方向性について主体的に見いだそうとしている。
	B基準	・脊椎動物や植物のグループ間の相違点を理解し、知識を身に付けている。	・グループ間の相違点にいて表にまとめている。	・それぞれのグループの特徴を表にまとめ、共通点を考察し進化の方向性を見いだそうとしている。
	基			

方法…評価方法 A基準（十分満足できる。） B基準（おおむね満足できる。） ★…重点評価項目

探究活動 遺伝子を扱う技術について考えよう（2時間）		観点別評価	
ねらい	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
・遺伝子やDNAに関する研究成果の活用について、総合的に調べ、遺伝子技術と人間との関わり方について認識する。	遺伝の規則性と遺伝子に関する事物・現象の特徴に着目しながら、遺伝の規則性と遺伝子についての基本的な概念や原理・法則などを理解しているとともに、科学的に探究するために必要な観察、実験などに関する基本操作や記録などの基本的な技能を身に付けている。	遺伝の規則性と遺伝子について、観察、実験などを行い、その結果や資料を分析して解釈し、遺伝現象についての特徴や規則性を見いだして表現しているとともに、探究の過程を振り返るなど、科学的に探究している。	遺伝の規則性と遺伝子に関する事物・現象に進んで関わり、見通しをもったり振り返ったりするなど、科学的に探究しようとしている。

時 数	項目 ＜項の目標＞	観点別評価		
		知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
規 準	遺伝子を扱う技術について考えよう ◆2分野（5）ア（イ）㉔、イ 〈遺伝子やDNAを扱う技術が、医療、食料、環境、産業など日常生活や社会に関わるさまざまな分野で、利用されている。このことについて、文献や情報通信ネットワークなどを活用して、利点や問題点、疑問点などをきめ理解を深める。〉	・遺伝子やDNAを扱う技術の知識を身に付け、その利点や課題について理解している。	★遺伝子やDNAを扱う技術が生活に利用されている例をもとに、利点や安全面の疑問点、課題などについて、自らの考えをまとめ、表現している。	★生活に利用されている遺伝子やDNAを扱う技術について、複数の情報を調べ、科学的に探究しようとしている。
		方法 レポート、ペーパーテスト	レポート、発表	行動観察、レポート
		A 基準 ・遺伝子やDNAを扱う多数の技術の利点や課題などについて指摘し、知識を身に付けている。	・遺伝子やDNAを扱う技術の利点や課題、今後の発展などについて自らの考えを適切にまとめ、表現している。	・多くの文献や情報通信ネットワークを適切に活用して、遺伝子やDNAに関する研究について調べ、利点や問題点についても言及しながらまとめ、適切に表現している。
		B 基準 ・遺伝子やDNAを扱う技術について理解し、知識を身に付けている。	・遺伝子やDNAを扱う技術の利点や課題をまとめ、表現している。	・遺伝子やDNAに関する研究について文献や情報通信ネットワーク活用して調べ、利点や問題点についてまとめている。

方法…評価方法 A基準（十分満足できる。） B基準（おおむね満足できる。） ★…重点評価項目

単元のねらい	観点別評価		
	知識・技能	理解・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
身近な自然環境などを調べる観察、実験などを行い、科学的に考察して、自然界のつり合いについて理解する。 生命に関する事物・現象に進んで関わり、科学的に探究しようとする態度と、生命を尊重し、自然環境の保全に寄与する態度を養うとともに、自然を総合的に見ることができる。	日常生活や社会と関連付けながら、自然界のつり合いについて理解するとともに、微生物のはたらきなどを調べる観察、実験などに関する技能を身に付けている。	身近な自然界のつながりなどを調べる観察、実験などを行い、自然界のつり合いについて、科学的に考察して判断している。	自然と人間に関する事物・現象に進んで関わり、見通しをもったり振り返ったりするなど、科学的に探究しようとしている。

章のねらい	観点別評価		
	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
・生物どうしのつながりを調べ、植物と動物の役割を理解するとともに、自然界では、これらの生物がつり合いを保って生活していることを見いだして理解する。	自然と人間に着目しながら、生物どうしのつながりに関する基本的な概念などを理解しているとともに、科学的に探究するために必要な観察、実験などに関する基本操作や記録などの基本的な技能を身に付けている。	生物と環境についての観察・実験などを通して、自然界のつり合いについての規則性や関係性を、科学的に考察し探究している。	生物どうしのつながりに関する事物・現象に進んで関わり、見通しをもったり振り返ったりするなど、科学的に探究しようとしている。

数	項目 ＜項の目標＞	観点別評価		
		知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
1 A B 2	生物の食べる・食べられるの関係 A 生物どうしのつながり B 土の中の生物のつながり 2 生物どうしのつり合い ◆2分野（7）ア（ア）㊦、イ （食べる・食べられるという関係と生物の数量の関係から、自然界では生物がつり合いを保って生活していることを見いだす）	★自然界では、生物は食べる・食べられるという関係の中で生活していることを理解し、消費者、生産者などについての知識を身に付けている。 ★食物連鎖と生物の数量やつり合いについて理解し、知識を身に付けている。 規 準	★生物は食物連鎖によって複雑につながっていることを見いだすとともに、食物連鎖の上位のものほど個体数が少ないなど量的な関係をまとめ、表現している。 ★生産者と消費者の役割について考え、量的な関係やつり合いについて資料やデータを分析し、生物がつり合いを保って生活していることを見いだし表現している。 方 法 A 基 準 B 基 準	・生物が食べる・食べられるという関係の中で生活していることに興味をもち、それらの関係を、科学的に探究しようとしている。 ・生産者と消費者の量的な関係やつり合いについて興味をもち、資料や身近な例をもとに探究しようとするとともに、自然環境のつり合いのしくみを大切にしようとする。 行 動 観 察 、 ワ ー ク シ ー ト
		・食物連鎖や生物間の量的関係を、根拠を示して正しく説明し、知識を身に付けている。 ・食物連鎖や生物間の量的関係を理解し、知識を身に付けている。	・生産者と一次・二次消費者の数量変化について、根拠を示しながらまとめて、つり合いが保たれていることに言及している。 ・生産者と消費者の量的変化について、順を追って説明している。	・陸上のほか、水中や土の中にも食物連鎖とそのつり合いが存在することに興味をもち、主体的に話し合いを進めてまとめている。 ・自然界の食物連鎖に興味をもち、そのつり合いについて調べ、話し合いまとめている。

方法…評価方法 A基準（十分満足できる。） B基準（おおむね満足できる。） ★…重点評価項目

章のねらい	観点別評価		
	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
・微生物のはたらきを調べ、植物、動物及び微生物を栄養の面から相互に関連付けて理解するとともに、自然界では、これらの生物がつり合いを保って生活していることを見いだして理解する。	自然と人間に着目しながら、自然界を循環する物質についての基本的な概念などを理解しているとともに、科学的に探究するために必要な観察、実験などに関する基本操作や記録などの基本的な技能を身に付けている。	微生物のはたらきを調べる観察、実験などを行い、科学的に考察して判断しているなど、科学的に探究している。	自然界を循環する物質に関する事物・現象に進んで関わり、見通しをもったり振り返ったりするなど、科学的に探究しようとしている。

時 数	項目 ＜項の目標＞	観点別評価例		
		知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
1 2 ◆2分野（7）ア（ア）㉔、イ （土の中の微生物のはたらきを調べ、分解者の役割を知り、自然界での物質の循環と生物の生活との関係を見いだす）	規 準	★土の中の小動物や菌類、細菌類などの分解者などのはたらきによって有機物が無機物に分解されることを理解し、知識を身につけている。 ★炭素、酸素などは生産者、消費者、分解者のはたらきを通して循環していることを理解し、知識を身につけている。 ★土の中の微生物によってデンプンなどの有機物が分解されることを、対照実験など科学的な方法によって調べている。	★落ち葉などの有機物が分解されるのは、土の中の小動物や微生物のはたらきによることを推察し、解決する方法を立案して実験を行い、結果をまとめ、表現している。 ★すべての生物が生きていくためのエネルギーは、物質の循環にもなって生産者がとりこんだ太陽のエネルギーがもとになっていることを推察してまとめ、表現している。	・落ち葉や生物の死がいのゆくえに興味をもち、土の中の微生物について見通しをもって実験を行い、科学的に探究しようとしている。 ・炭素、酸素などが生物を通して自然界を循環していることに興味をもち、資料などをもとに探究しようとしている。 ・物質の循環を通して、すべての生物がつながっていることに気づき、自然を大切に保全しようとしている。
	方 法	レポート、ペーパーテスト	レポート、ペーパーテスト	行動観察、レポート
	A 基 準	・分解者のはたらきについての知識を身に付け、微生物により分解された物質が食物連鎖、物質の循環に関連することを理解している。 ・実験の流れや正しい対照実験のやり方を工夫して計画し、適切な結果を得ている。	・微生物のはたらきについての実験結果から、根拠を正しく示しながら微生物のはたらきを見いだし、適切に表現している。	・微生物のはたらきについて、自ら課題を設定し、見通しをもって実験を行い、科学的な探究を主体的にしようとしている。
	B 基 準	・分解者に相当する生物について理解し、物質のゆくえに關する知識を身につけている。 ・対照実験を正しく行い、結果をまとめている。	・微生物のはたらきについての実験結果から、微生物のはたらきを見いだし、表現している。	・微生物のはたらきについて、課題を設定し、見通しをもって実験を行い、科学的に探究しようとしている。

方法…評価方法 A基準（十分満足できる。） B基準（おおむね満足できる。） ★…重点評価項目

ねらい	観点別評価		
	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
・これまでに学習してきた自然界のつながりを活用して、自分たちがすんでいるような町の自然にもつながりがあることを、班やクラス全体での意見交換から実感し、理解する。	自然と人間に着目しながら、生物どうしのつながりに関する基本的な概念などを理解しているとともに、自分の考えをもって他の生徒たちと意見の交換などを行っている。	自然界のつり合いについての規則性や関係性を、科学的に考察し探究している。	生物どうしのつながりに関する事物・現象に進んで関わり、これまでの学習を振り返ったりするなど、科学的に探究しようとしている。

数	項目 ＜項の目標＞	観点別評価		
		知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
	身のまわりの生物の関わりを考えよう ◆2分野（7）ア②、イ ＜それぞれの班で考えた生態系における つながりをもとに、自然界全体の生物の 関わりについて理解を深め、自然を大切 に保全しようとする＞	規 準	・生物どうしのつながりを切ると考えられる要因を理解して いる。 ・他の班のつながりとの関連や、つながりを切ってしまう要 因を見いだし、表現している。	★身のまわりの生物のつながりについて見通しをもって考察 し、科学的に探究しようとしている。 ★生物どうしのつながりが身のまわりにもあることを気づ き、自然を大切にしようという意識をもっている。
	方 法	ワークシート	行動観察、ワークシート	行動観察、ワークシート
	A 基 準	・生物どうしのつながりを切ると考えられる要因を複数あげ て、理解している。	・班のまとめと他の班のつながりとの関連を表現している。 また、つながりを切ると考えられる要因について根拠を示し ながら見だし、適切に表現している。	・身のまわりの生物のつながりについて、自ら課題を設定し て考察するなど、科学的な探究を主体的にしようとしてい る。
	B 基 準	・生物どうしのつながりを切ると考えられる要因をあげて、 理解している。	・他の班のつながりとの関連に触れ、つながりを切ってしま う要因について見だし、表現している。	・身のまわりの生物のつながりについて、課題に沿って考察 するなど、科学的に探究しようとしている。

方法…評価方法 A基準（十分満足できる。） B基準（おおむね満足できる。） ★…重点評価項目